

議会運営委員会視察

【視察先】 熊本県大津町議会・宇土市議会

【日時】 令和5年10月16日から17日

【参加者】

水落龍彦・山下茂・光益良洋
丸山修二・梅本哲・野村泰也

【研修内容①】大津町議会におけるICT化推進事業について
○事業経緯

- ・平成26年9月タブレット導入
- ・平成28年熊本地震で庁舎使用不能

- ・平成30年新議場設備機能についての取りまとめとICT関係整備計画検討

- ・令和3年7月新議場使用開始、タブレット操作方法等の研修実施

- ・令和3年9月一般質問における資料提示、本格的映像配信

○議会ICTの基本的な考え方

- 1 住民との接点

- 2 ライフ議会中継及び録画中継に議案資料なども挿入可
- 2 議会活動の見える化

タブレット端末を使った質疑、一般質問、執行部の議案説明

3 議会運営の充実

ウェブ会議システムの導入

4 議会事務の効率化

各種通知・文章の電子化、ペーパーレス化

5 危機管理体制の強化

スマホを併用し、被災現場などの迅速な情報収集、議員への迅速な緊急連絡、町内災害状況の確な提供

Q ペーパーレスの効果は？

A 令和2年に比べ高さにして4センチ分の配布物等の削減ができた。

Q 何名で議会のICT化を進めたか

A 議員3名が関わってきた。

【研修内容②】宇土市議会における大規模災害発生時の対応について

○被災の状況

- ・平成28年4月14日前震、16日震度6強の本震により、市役所本庁舎の4・5階部分が大きく崩壊

- ・隣接する議会棟は立ち入禁止
- ・住民は、車中泊や避難が長期化
- ・発災後、宇土市役所仮庁舎は市民体育館へ移転
- ・課ごとのスペースなし、市民

課、税務課、罹災証明等の担当を除き、大半が通常業務停止

・職員の大半が現場と避難所対応

○議会の対応

- ・議員は、自分の地域の物資支援協力、情報収集
- ・発災11日後に、全員協議会実施

担当から被害状況、避難所状況、避難指示状況、被災者支援状況の説明

・議会としての今後の取組について次の6点を協議

- ①会期の短縮
- ②一般質問を短縮
- ③提言書を執行部に提出
- ④地元選出議員に対する陳情
- ⑤全員協議会を毎週開催
- ⑥復興対策に関する特別委員会の設置

研修を通して、広川町議会も



宇土市議会での研修

デジタル化を考え、議会の効率化、ペーパーレス化、迅速な情報共有をしていく必要性を考えさせられた。

ハラスメント研修会

11月13日、ハラスメント防止に向けて、その実態や対応について研修した。ハラスメントは加害者が無自覚のことも多い。周りが注意する、周りが支えて一緒に声をあげることが重要。第三者（バイスタンダー）の寄り添う行動が大切である。

バイスタンダー 5つの介入方法

- ①直接介入する。(加害者に直接注意する)
- ②気をそらす。(話題を変える、物を落とす、電気を消す等)
- ③助けを求める。(周りの人に協力をお願いする、上司に相談する)
- ④記録する。(写真、動画、録画、メモなどで記録する)
- ⑤後でフォローする。(ハラスメントを受けた人に声かけしたり、できることを尋ねたりする)

Stand by Women 代表 濱田 真里氏の資料より